

小学6年生／国語

単元：『鳥獣戯画』を読む

筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう

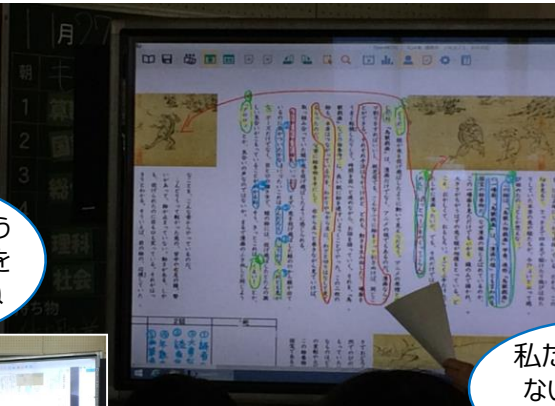
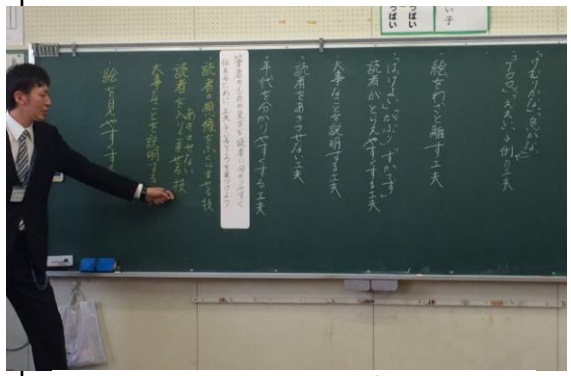
先生用PCにデジタルペン4本を接続
グループ(3人)に1本ずつ配布して使用

【本時の目標】

筆者のものの見方を伝えるための書き方の工夫を探し、それらを観点に沿って分類することを通して、考えを効果的に伝えるための表現や構成について理解することができる。 [4/6時]

＜授業の流れ＞

	授業の展開と予想される子どもの表れ	主な手立て・支援・評価
前時の振り返り	<p>筆者の、『鳥獣戯画』に対するものの見方を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「絵巻物」に対し、漫画の祖で、絵の力を使って物語を語るものであり、今日まで続く日本文化の大きな特色、と感じている。 『鳥獣戯画』に対して、自由闊達な絵で、現代の私たちに伝えられた、人類の宝、と感じている。  <p>前の授業で学んだ「書き方の工夫」の続きをしますよ</p> <p>筆者は「人類の宝」と感じていたよね</p>	<p>・フローチャートを使って単元の展開と本時の学習の流れを確認する。</p> <p>・筆者が『鳥獣戯画』の、「何に対して」「どのように」感じているのか、前時で読み取ったことを確認する。</p> <p>・筆者がものの見方を読者に伝えるために、様々な工夫を使っていることを、前時に押さえる。個人ごとに、筆者の工夫を探し、工夫していると思う言葉や文を○で囲んでおく。</p> 
課題提示 ／ グループ活動	<p>筆者の見方を読者に分かりやすく伝えるために、工夫しているところを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「すかさず」「なんと」「おっと」という表現 → テンポがよい。 文末表現に「だ。」「である」を使う → 語りかけているようで読みやすい。 「めくってごらん。」と語りかけている → 文章に入りやすい。 「まるで漫画の」と例を使っている → 読み手が理解しやすい。 短い文を多く使うこと → 読みやすい。文章に入りやすい。 挿絵をわざと別々に表示 → 読み手が理解しやすい。 「はじめ」は、急に絵の説明 → 読者を文章に引き込んでいる。 「終わり」には、筆者の主張 → 自分の見方をまとめている。  <p>私はここが工夫されていると思う！みんなはどこ？</p> <p>これも工夫かな？</p>	<p>★ICT活用①</p> <p>小グループにおける話し合いとしての活用 (オープンノート)</p> <p>⇒ グループごとに工夫をシートに書き込む。</p> <p>全グループの記入内容をリアルタイムに教員用PCに集約</p>  <p>文章全体を並べてA3サイズでプリントしたグループごとのワークシート</p>  <p>見つけた工夫をデジタルペンでシートに記入</p>

	授業の展開と予想される子どもの表れ	主な手立て・支援・評価
<p>全体で共有</p>	 <p>班によって違うところに工夫を見つけてるね</p> <p>電子黒板に、グループごとに書き込んだ工夫を重ねて表示</p> <p>私たちが書いてないところにも○がついてる！</p> <p>こっちの絵も工夫!?</p>	<p>★ICT活用②</p> <p>全体における意見の共有としての活用（電子黒板）</p> <p>⇒ グループごとに書き込んだ工夫を、電子黒板に表示させ、見つけた工夫を全体で共有する。</p> <p>ワークシートに書き込んだ内容を、グループごとに異なる色で、1つの画面に重ねて表示し、同じところ・違うところに気づきやすくする</p> <p>【使用した用紙】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの色決め →カラーパレット ・1つの画面に集約 →名簿用紙
<p>まとめ</p>	<p>筆者の分かりやすく伝えるための工夫は、どんな技にまとめられるだろうか。</p> <p>【文章表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話しかけや問いかけを使った技 ・記述の技（読み手を引き込みやすい言葉） ・例を使った技 ・文末表現の技（リズム感、「だ。である。」を使う） <p>【構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を使った技 ・書き出しの技（絵に対する自分の読みをいきなり表現する） ・書き終わりの技（自分の主張をまとめる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題を提示し、見つけた工夫を分類して、技ごとにまとめる。 ・分かりやすいものから提示し、グループ分けをしたり、観点を明確にしたりする。  <p>見つけた工夫を板書しながら分類</p>

（先生の声） * 授業者荻原先生と授業後の研究会に参加された先生方から頂いたお声です

- ・オープンノートは、紙に書き込んだものがそのまま映し出せて、各班の内容を重ねて共有できるところがとても良いです。今回は、全体を見せるためにオープンノートを使いました。デジタル教科書の場合は、見開き1ページずつしか見せることができないけれど、オープンノートの印刷機能を使えば、A3サイズ用の紙に見せたいページを並べたワークシートを作れます。ワークシートの印刷も思っていたより簡単で、支援なしで一人でできます。
- ・同じところ、違うところを視覚的にすぐに捉えることができるのは、子どもたちの理解に大きなメリットがあると思います。また、順番に答えていく方法では人数が多いほど先に言われたりしてしまうので、一斉に重なって見れば、子どもたちは自分の意見が反映されていると感じられる、という効果もあります。
- ・各班の内容を色違いで映せるのはすごく良いです。実物提示装置にはできない共有方法です。
- ・今回の授業のデータをプリントして、次回それを使って全員で議論してもよいと思います。
- ・デジタルペンを使っても、子どもたちの机の上は今までどおり「教科書とペンとワークシート」で邪魔にならない。普段の授業の延長上でICTの活用があって、こういうICTの使い方がいいのかな、と思いました。

※本事例は、静岡県静岡市立美和小学校様にて、デジタルペン授業支援ツール「OpenNOTE」を用いて実践いただいた授業例です。

<開発元>

大日本印刷株式会社

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1 TEL : 03-6735-6195

URL : <http://www.dnp.co.jp/opennote/index.html>

Copyright © 2016 Dai Nippon Printing Co., Ltd. All Rights Reserved.

<問合せ先>